令和８年度第１回寝屋川市文化振興会議　会議録

１　日時
令和８年10月９日（金）10:00から11:10まで

２　場所
寝屋川市役所　議会棟５階　第二委員会室

３　出席委員
光石委員、谷委員、河合委員、小野委員、藤田委員、村上委員

４　欠席委員
なし

５　事務局
三宅理事、阪本課長、河端係長、丸山係長、安藤、古川

６　傍聴者
なし

７　会議次第
⑴　委嘱状の交付について
⑵　会長・副会長の選出について
⑶　寝屋川市の文化振興事業について
・文化・芸術活動の活性化
・文化振興のための環境整備
・文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくり
⑷　寝屋川文化芸術祭について
⑸　閉会
会長挨拶

会議録

⑴　委嘱状の交付について
　　各委員に委嘱状が交付された。

⑵　会長・副会長の選出について
　　委員の互選により谷委員が会長に、河合委員が副会長に選出された。

⑶　寝屋川市の文化振興事業について
　　事務局から資料に基づき説明を行った後、各委員から意見聴取を行った。

ア　文化・芸術活動の活性化
　　質問及び意見なし。

イ　文化振興のための環境整備
　　質問：「地域交流センター（アルカスホール）管理運営事業」の予算が大幅に上がっている理由は何か。
　　回答：地域交流センターは指定管理者制度を導入しており、指定管理料が５年間の管理運営の委託料となる。令和７年度は指定管理者の選定の年で、令和８年度が切替えのタイミングであった。寝屋川市では指定管理者に委託する際に、今後の値上げ上昇分も加味した委託料で契約するようにしており、令和８年度予算には近年の人件費、光熱水費等の上昇分が増額されているのが主な要因である。

　　質問：地域交流センターの委託料が上がっているが、施設の利用料は上げないのか。
　　回答：公共施設であるため、民間施設よりも安い金額で設定しているところである。利用料の上限は条例で決まっており、１つの施設の上限を上げるのは、議会を通す必要があり難しい。

　　意見：別部署の所管施設であるが、市民会館を普段利用しており、小ホールの机が老朽化し使いにくくなっている。市民会館に限らず、利用料を上げて、備品購入費や修繕料に回してはどうか。
　　質問：市民会館の話になるが、直近では反響板の故障もあり、そのような環境整備に関する要望及び問合せは、担当部署である市民活動振興室にすれば良いのか。
　　回答：市民会館及び地域交流センターはどちらも指定管理者制度を導入しているが、別々の指定管理者に管理運営を委託している。市民会館の大ホール、小ホールに対して、地域交流センターのメインホールは中ホールのような役割を担っていると考えているた

め、今後の指定管理者の選定では、１つの指定管理者に委託を行うことでスケールメリットが出ないかということを検討していくつもりである。また、１つの指定管理者が２つの施設を管理運営していくことでコストを抑制し、施設の整備に予算を回せるのではないかと考えている。

意見：ダンスの練習で鏡が必要だが、市民会館にある鏡は老朽化が進んでいる。地域交流センターもいいのだが、予約が埋まっていることが多く、なかなか空いていない。

回答：文化スポーツ室が所管している池の里市民交流センターにも鏡のある部屋を設けている。よろしければ、そちらの施設も利用していただきたい。

ウ　文化財・地域文化資源の保護と活用体制づくり

質問：国指定史跡高宮廃寺跡活用事業は、令和７年度で整備が終わり今後は維持管理だけなので、大幅な減額になっているということか。

回答：そのとおり。

エ　全般

意見：今年度予算、前年度予算、前年度決算の総額と執行率を資料に示していただけるとありがたい。

意見：予算の総額は毎年同じくらいか。

回答：経常的な分と、臨時的な分がある。例えば、地域交流センターの決算額には、近年の急激な光熱費の高騰があったため、その補てんの額が含まれている。

⑷　寝屋川文化芸術祭について

事務局から資料に基づき説明を行った後、各委員から意見聴取を行った。

質問：寝屋川市駅周辺の商店街と協力はできないのか。

意見：具体的な意見ではないが、文化芸術活動となにかを掛け合わせて、今までにないにぎわいの創出が必要である。

回答：今年、「寝屋川まつり」を寝屋川市駅の駅前で開催した。スペースの都合により出店数は制限されたが、周辺のお店がとても賑わったという報告を受けている。例年、打上川治水緑地で行っていたイベントを駅前に移したことで、こちらが想像していなかった事象が発生し、このような効果が得られた。寝屋川文化芸術祭も駅前に集約することで、周辺からも協力を得られると考えている。

意見：昨年、市民会館に寝屋川文化芸術祭のダンスのステージを見に行った。見る人は少なかったが、少ないが故に、ダンスを始めたばかりの人にはちょうど良い機会だと思った。

意見：パレードなどを行っていた昔と比べると、今の文化芸術活動が地味で悲しい。文化連盟などの文化芸術に関わる方々が高齢化してきており、作品の展示数も減ってきている。時代の変化で、専業主婦の方も少なくなっており、お稽古に行く時間やお金の余裕がなくなってきている。このような現状でどのように文化芸術を振興していくのか不安である。

質問：事業の中で、体験型のイベントは具体的には何があるのか。
回答：中央小学校及び市民会館で体験型の事業を行っている。
また、夏休み期間にも小中学生向けに同様の事業を行っている。
質問：次世代を担うような方の参加状況はどうか。
回答：陶芸体験などは小学生の参加が多く、何年も来られる方もいる。

意見：イベントの満足度を計る上では、「イベントの参加人数」を指標にするべきである。団体の数や文化芸術に携わっている人の数を指標にすると、先ほどの意見でもあったように文化芸術に関わる人が先細りしてきている現状があるため、だんだんネガティブになってくると思われる。

⑸　閉会
会長から御挨拶をいただいた。